

「つながりの力 ～創立41年目を迎えて～」



同窓会長 石王丸 敦司 (3期生)

春光うらかな季節を迎え、同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より同窓会の活動に深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本年、大門高校は創立四十一年目を迎えます。四十周年の節目を越え、改めて母校と同窓会の歩みを振り返り、未来への一步をとともに考える機会としたいと思います。

私は現在、同窓会長としての役に加え、学校評議員として母校の教育活動にも直接関わらせていただいております。生徒たちの姿を日々拝見する中で感じるのは、一人ひとりが明確な目標を胸に、学業に真摯に取り組み、部活動や学校行事にも全力で挑んでいるということです。先輩方が築いてきた「工夫して実行する」という意味の「創意敢行」という校風が、しっかりと次の世代に受け継がれていることに、心から誇りを感じております。

また近年、母校は地元射水市と連携し、地域の課題解決にICTやAI、ディープラーニングなどの最先端技術を活用する取り組みを進めています。これらの活動では、生徒たちが自ら考え、データを分析し、社会に貢献する姿勢を育むことが目的とされています。こうした挑戦は、まさに「学びが地域とつながる」ことの実例であり、同窓生としても心強く、応援したい取り組みです。

同窓会の役割は、母校を支えることにとどまりません。世代を超えた同窓生が互いに刺激を与え合い、仕事や地域活動を通じて新たな価値を生み出すことこそ、最大の強みだと感じています。昨年も、小規模ながら学年単位の集まりや、年代を超えた交流が広がりました。「久しぶり」の再会が、次の活動のきっかけとなることを嬉しく思います。

これからも同窓会は、母校と地域の未来をつなぐ架け橋として、皆様とともに歩んでまいります。母校で学ぶ若い世代が、私たち同窓生の歩みを見て希望を持てるように、OB・OGが支えとなり、励まし合える関係を築いていきましょう。

末筆ながら、皆様のご健康とさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。今後とも大門高校同窓会への一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創立40周年を節目として



校長 石黒 光 弘

同窓会の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校の教育活動に対し、温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本校は令和7年10月に、創立40周年記念式典を盛大に挙行することができました。新田富山県知事、夏野射水市長をはじめ、多数のご来賓、旧職員、そして同窓生の皆様にご列席いただき、本校の歴史と未来を共有する貴重な一日となりました。式典後の記念講演では、本校11期生で金沢大学の今村公紀准教授にご登壇いただきました。今村様は、ご自身の高校時代の過ごし方から恩師がノーベル賞受賞研究に携わった舞台裏まで、示唆に富む興味深いお話をしてくださいました。生徒は、身近な大先輩の経験談に驚きと感銘を受け、自分の未来への大きな励みになったことと確信しております。この記念事業を成功に導くにあたり、同窓会の皆様から賜りました多大なるご支援、ご協力に、改めて深くお礼申し上げます。

さて、本校生徒は、今年度も学校生活の中で大いに成長してくれています。特に、本校が核として取り組んでいる情報の教育分野においては、目覚ましい成果が見られました。昨年度に引き続き、文部科学省の「DXハイスクール」が継続されており、情報環境の整備が進んでいるおかげで、「情報課題研究」や「情報Ⅱ」において生徒たちが最先端の情報技術に触れながら、探究的な学びを深める場となっています。この経験は未来のデジタル社会を担う人材育成につながっています。

情報教育の成果は、国際的な場にも広がりを見せました。昨年度から国際環境委員会で研究・広報していた内容を、去る7月にGlobal Link Singaporeにて生徒2名が英語で発表し、その独創性と内容が高く評価され、クリエイティビティ賞を受賞いたしました。これは、生徒が培ってきた課題解決能力やプレゼンテーション能力が、国際的な基準で認められたことを示しており、大きな喜びであると、教職員一同、誇りに感じております。

さらに、地域とのつながり、すなわち、射水市との連携においては、昨年度に引き続き、2年生の「情報課題研究」で、地域の具体的な課題をテーマとし、情報技術を活用しながら解決策を考案・提案する活動が軌道に乗っています。優れた成果は射水市長への提案発表のほか、地元中学校への出前講座の形でも発信され、地域社会への還元を果たしています。

創立40周年という節目を越え、本校はこれからも情報を核とした教育活動を通じて、「地域に根ざし、社会に貢献できる人材」の育成に邁進してまいります。生徒たちが、現代社会の様々な課題に対応できる人間性を身につけられるよう、教職員も尽力していく所存です。

同窓生の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に対しまして、温かいご理解と変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念し、挨拶といたします。

6期生 荒木 信幸 (有限会社 荒木商会 社長)

大門高校を卒業して、気づけばもう30年以上が経ちました。時が経つのは本当に早く、年々そのスピードを実感するようになりました。高校生活も遠い記憶になりましたが、振り返ると、部活と勉強に追われる毎日だったように思います。私はバスケットボール部に所属していました。外での走り込みが特にきつく、ケガも多くて、思い返すと「苦しかったなあ」という記憶が多いです。多くの挫折を経験した時期でもありました。3年生になると受験モードに入りましたが、当時はまだ明確な目標もなく、とりあえず大学に合格することがゴールでした。幸い志望校に合格でき、その後の大学生活では、思いっきり遊び、学外での経験に全力を注いでいました。



高校時代の友人は多い方ではありませんが、部活の仲間やクラスメイト、先輩後輩とは今でもつながりがあります。久しぶりに会っても、まるで高校時代に戻ったような気持ちになれる関係性は、私にとってかけがえのない宝物です。また、仕事で人と接する機会も多い中で、相手と同じ大門高校の卒業生だとわかったとき、一気に距離が縮まり、自然と会話が弾むことがあります。

現在は祖父から受け継いだ家業をリサイクル業に転換し、「有限会社 荒木商会」の代表として20年が経ちました。今年、会社は創業70年を迎えます。ここまでつないでくれた先代への感謝を形にするため、今は4社を経営し、これから最低でも6社を立ち上げ、社内から10人の社長を育てることを目標にしています。とはいえ、ここに至るまで順風満帆だったわけではありません。経営者として未熟さゆえの失敗は数知れず、詐欺に遭い大きな損失を出したり、多くの社員の退職を経験したり、業績が振るわず入社拒否になった時期もありました。それでも「同じ失敗を繰り返さない」「学び続ける」と自分に言い聞かせながら、経営や生き方について多くを学びました。「失敗は成功の基」という言葉に何度も救われました。今、まだ成功の途中かもしれませんが、家族や社員に恵まれ、笑顔の多い毎日を送れています。苦しかった経験や悔しさは、自分を育てる肥やしになりました。人生は右肩上がりばかりではありませんが、予想もしないサプライズに満ちています。



在校生や若い卒業生の皆さんへ。もし今つらいことがあっても、「これは未来をより良くするための試練だ」と思ってみてください。どんな経験もきっとあなたの力になります。苦楽を楽しみながら、自分の舵で未来を切り拓いてください。



8期生 上坂 陽一郎 (アニメーションプロデューサー、 アッセフィノーファブリック 代表取締役)

当時の私は、特別に目立つ成績があったわけでもなく、自信と呼べるものほとんど持っていませんでした。

「この先、自分はようになっていくんだろう」明確な目標があったわけでもなく、将来について深く考えていたとも言えません。ただ漠然とした不安のようなものをどこかに抱えていた気がします。学校生活においても特別に問題があったわけでもありません。誰かと衝突したり大きなトラブルを起こしたりしていたわけでもありませんが、周囲と自然に溶け込めていたかというところではなかったと思います。教室にいても少しだけ距離を感じながら過ごしていました。

高校卒業後、進学は選ばず、富山を離れて上京しました。人と違うことをやってみたかったという気持ちもありましたが、それ以上に環境を変えてみたいという思いが強かったのだと思います。上京後、アニメの仕事に就きました。制作やプロデュースに関わる中で、気がつけば28年が経ち、今もこの仕事を続けています。絵は描きませんし、描こうとしてきたわけでもありません。ですが、アニメのエンドロールを見れば分かる通り、作品には本当に多くの役割があります。描く人、動かす人、音を作る人、全体を整える人、判断し支える人など、それぞれの役割が重なり合って、ひとつの作品が形になります。描けなくても関わられる仕事は数多くあり、その中で私は裏方としていくつかの作品を世に送り出してきました。アニメーション制作の現場で経験を重ねるうちに、自然と多くのスタッフと関わる立場になっていきました。作品は一人で作るものではありません。多様な考え方や得意分野を持つ人たちが集まり、それぞれの役割を持ち寄ることで、ひとつの映像が形になります。その過程には大変さもありますが、それ以上に“ものづくり”の面白さがあります。さまざまな人と関わる中で、人や作品を丁寧に繊細に扱うことの大切さを学びました。振り返ると、学生時代に感じていた周囲との距離や、自分の立ち位置を探していた時間が、相手の立場を考えながら関わる今の姿勢につながっているのかもしれない。当時は意味を見出せなかった時間も、振り返れば決して無駄ではありませんでした。経験はすぐに答えとして現れなくても、あとになって別の形で生きてくることがあります。もし今、将来がはっきり見えなかったり、自分に何が向いているのか分からないと感じている人がいたとしても、焦る必要はないと思います。アニメの仕事に限らず、どんな仕事にも、本当にさまざまな役割があります。表に見える仕事だけでなく、支える役割や、つなぐ役割、気づきにくいけれど欠かせない仕事もあります。今はまだ形になっていなくても、興味や違和感が思いがけない形で誰かの役に立つことがあります。そんな可能性があるということを中心に片隅に置いてもらえたら嬉しいです。



～第36回同窓会総会のご案内～

富山県立大門高等学校 同窓会総会2026
 日時：令和8年8月8日（土）
 場所：射水市大門総合会館

富山県立大門高等学校同窓会公式サイト
 大門高校学校代表アドレス

daimonko@ed.pref.toyama.jp

同窓会 Web ページの URL

https://daimonhd-tym.org

学校 Web ページの URL

https://www.daimon-h.tym.ed.jp

令和7年度入試 大学等合格状況

国 立 大 学	
福 島 大 学	1
埼 玉 大 学	1
横 浜 国 立 大 学	1
上 越 教 育 大 学	1
富 山 大 学	11
金 沢 大 学	4
京 都 工 芸 繊 維 大 学	1
琉 球 大 学	1
国 立 大 学 計	21



公 立 大 学	
青 森 公 立 大 学	1
高 崎 経 済 大 学	1
新 潟 県 立 大 学	1
富 山 県 立 大 学	17
公 立 小 松 大 学	1
福 井 県 立 大 学	3
長 野 大 学	3
長 野 県 立 大 学	1
愛 知 県 立 大 学	1
福 知 山 公 立 大 学	2
大 阪 公 立 大 学	1
公 立 鳥 取 環 境 大 学	2
長 崎 県 立 大 学	1
公 立 大 学 計	35

主 な 私 立 大 学	
文 教 大 学	1
学 習 院 大 学	1
芝 浦 工 業 大 学	4
成 蹊 大 学	1
駒 澤 大 学	1
専 修 大 学	4
中 央 大 学	1
東 洋 大 学	2
日 本 大 学	4
明 治 大 学	1
東 海 大 学	10
富 山 国 際 大 学	4(1)
金 沢 医 科 大 学	3
金 沢 星 稜 大 学	28
金 沢 工 業 大 学	32
金 沢 学 院 大 学	11
金 城 大 学	10
北 陸 大 学	8
福 井 工 業 大 学	2
愛 知 大 学	1
愛 知 学 院 大 学	2
中 京 大 学	2
南 山 大 学	1(1)
名 城 大 学	2
龍 谷 大 学	5
京 都 産 業 大 学	8
京 都 女 子 大 学	1
関 西 大 学	1
近 畿 大 学	19
私 立 大 学 計	232(4)

そ の 他	
短 期 大 学	3
専 門 学 校	16

第35回同窓会総会

日時：令和7年8月9日（土）
 12:00～14:00
 場所：射水市大門総合会館

＊例年通り総会・懇親会を開催しました。懇親会には37期生を招待し、約60名が参加し懐かしい先生や友人との再会を楽しみました。



ご案内

同窓会役員

役 職	氏 名	期 生
顧 問	小 林 伸 一	1
会 長	石 王 丸 敦 司	3
会 長 代 理	井 相 田 礼 子	1
会 長 代 理	若 林 大 輔	3
会 長 代 理	横 山 貴 一	3
理 事	福 澤 泰 樹	1
理 事	桑 山 知 子	1
理 事	山 田 大 輔	4
理 事	島 倉 奈 緒	7
理 事	高 桑 慎	2
理 事	武 内 良 昌	2
監 事	大 木 太 恵 志	4
監 事	洪 谷 章 弘	4

創立40周年記念事業

本校の創立40周年記念事業を次のような日程で行いました。創立40周年記念式典では、生徒や同窓生、関係者ら約600人近くが節目を祝い、さらなる発展を誓いました。

式典後に本校の卒業生の今村公紀氏による記念講演、夜にはホテルニューオータニ高岡で記念祝賀会を行いました。また、10月7日（火）には、創立40周年記念植樹式を本校前庭にて行いました。

創立40周年記念式典

日時：10月3日（金）
 場所：本校第1体育館



記念講演 講師：今村公紀氏（第11期生金沢大学医薬保健学域医学類脳神経医学教室准教授）
 演題：「ノーベル賞研究の舞台裏」

記念祝賀会

場所：ホテルニューオータニ高岡



創立40周年記念植樹式

日時：令和7年10月7日（火）
 場所：本校前庭

